



# 隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校  
学校だより No11  
文責 芹川博文  
6月20日(金)

## 自然の力と 豊かさを感じながら

～ 隈府小も まさに「食べられる校庭」～



先日、テレビのニュースで「食べられる校庭」と題して、学校で野菜を育て、それを調理して食べる取組が紹介されていました。世界的に見ても「エディブル・スクール・ヤード」として、アメリカを発信として世界各国で展開されているそうです。

そう思うと、隈府小もまさに「食べられる校庭」です。南中側の花壇は、野菜たちがずらりと育っています。雨も上がった今週、キュウリ、ナスは大きく実をつけ、青いながらもミニトマトも鈴なりでした。野菜のお世話をすることが大好きな児童はもちろん、心が落ち着く児童もいるとのこと。一人一鉢でも、1年生はアサガオ、2年生はミニトマトを育て、朝からお世話をしています。自然の力と豊かさを感じながら子どもたちは学びを深めているところです。

私の両親は牛を飼っていましたが、米や野菜も作っていました。子どもの頃は、野菜の収穫時期で季節を感じたものです。キュウリ、トマト、ナス、ピーマン、しばらくするとニガゴリ（ゴーヤ）、カボチャなど。食卓に特定の野菜が連日並び続けると、さすがに飽きました。しかし、一日の農作業を終えて夕食（晩飯）を作った母親に、面と向かっては言えず、2つ上の兄と「おー、今日も〇〇」と小声で言っていたのを懐かしく思い出します。

その時期に収穫される野菜によって、体を冷やす効果や、温める効果があるというから不思議です。旬の野菜で季節を感じ、体を整える。今思うと、続けて食卓に並ぼうとも、その時期の野菜を食べ続ける意味があったのだと、受け止め方も変わります。

只今、学校では食育月間中。委員会の子どもたちも、地元の食調べなどをして頑張っています。食について関心を高めてほしいと願います。

## 「命を守る」泳ぐ力 ～ 水泳の授業から ～

右の写真は、1年生のプール開きの日のシャワーの様子です。水しぶきと共に歓声が響きました。水泳の授業を前に、水泳は「命を守る」大切な授業であることを伝えました。

報道によると、全国的には水泳の授業を取りやめる学校が増えているそうです。同時に、今年も川や海での痛ましい水難事故が報道されています。

私が小学生の頃、夏休みの午後は、ひたすら川かプールに通うのが「日課」でした。そこで、上級生から、泳ぎ方をはじめ、飛び込み方やもぐり方を、遊びの中で教わりました。

事故が多発し、学校の授業で飛び込みが禁止されて20年以上が経ちます。そして今、水泳の授業そのものを取りやめる学校のニュースが流れるようになりました。「時代」と言えばそれまでかもしれません。しかし、これから大人になり、（気が早すぎるかもしれませんが）将来、自分自身はもちろん、家族や周りの人を守る立場になった時のことを想像すると、小学生のこの時期に、少しでも泳ぐ力をつけてほしいと切に願います。これから自然災害をはじめ、どんな状況に遭遇するか分かりません。泳げること、水の中で浮けることは、まさに命を守る力です。

